



現在、国内には46カ所のジオパークがあり、そのうち9カ所がユネスコ世界ジオパークです。山陰海岸ジオパークも9カ所のユネスコ世界ジオパークの1つで、その再認定審査が、10月9日から13日にかけて行われました。今回は、ジオパークになるにはどうしたらよいか、なぜ再認定審査があるのか、先日の審査の様子などをご紹介します。

ジオパークになるには？

ジオパークになるにはどうしたらよいのでしょうか。右の図1は、ジオパークに認定されるまでの過程を示したものです。ユネスコ世界ジオパークになるためには、まず日本ジオパークに認定されなければいけません。1つの国から、1年間に2地域までユネスコ世界ジオパーク候補地として申請書を提出できますが、日本ジオパークでないとユネスコ世界ジオパークの国内候補地申請ができません。提出する書類には、申請書の他に自己評価表というものがあります。実際の審査は、提出された書類による書類審査と、現地審査が行われます。

皆さんは、審査というとどのようなイメージを持たれているでしょうか。実際は審査というよりも確認（検証）作業といったイメージです。保護保全の活動の様子や、ガイド活動の様子、教育活動や産業への活用、看板やパンフレット、拠点施設などを実際に確認します。また、自己評価表に書かれている評価が、正しく行われているかをチェックします。自己評価表の点数は高い方がよいのですが、大切なことは、自分たちが自分たちのジオパークを正しく評価できているかということです。課題を理解しているジオパークは自ら改善することができますが、課題が理解できていないジオパークは、改善できません。このような書類審査と現地審査の結果を踏まえ、日本ジオパークなら日本ジオパーク委員会が、ユネスコ世界ジオパークならそのカウンスル（評議会）が審議を行います。そして、それぞれ承認されればジオパークとして4年間活動ができるようになります。

4年ごとの再認定審査は、ジオパークとしての機能と質を再評価するために行われます。ジオパークは、その活動を通じて持続可能な社会の実現を目指しています。ですから、地域のジオサイトが適切に保護され、それらを活用したツーリズムや教育が持続可能な形で実施されているか、また、管理運営団体の組織についても評価されます。再認定審査も、多少手続きは異なりますが、書類審査と現地審査を行い、それぞれの委員会やカウンスルの審議を経て決定されます。次に、今回の再認定審査の様子をご紹介します。（裏面へ）

参考：日本ジオパーク委員会ホームページ <https://jgc.geopark.jp>

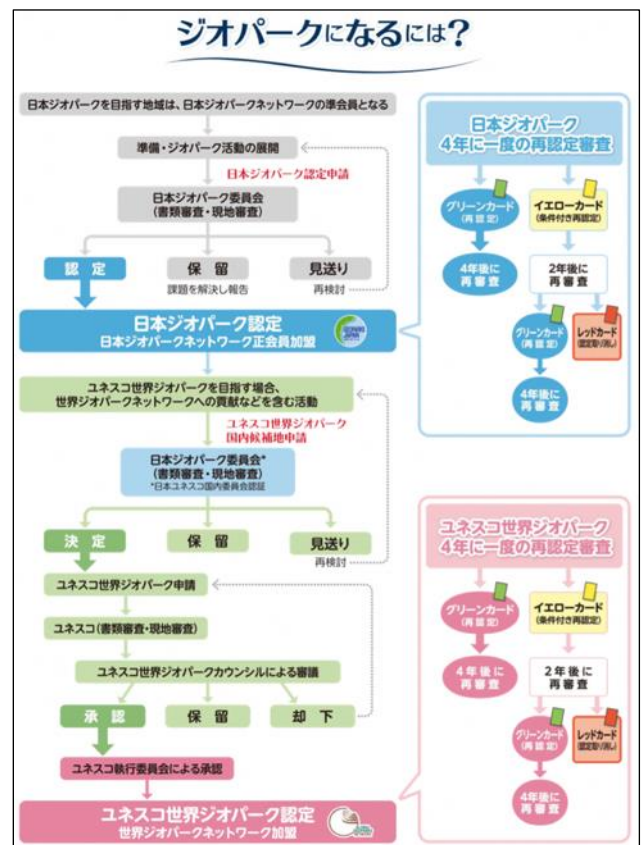


図1：ジオパークに認定されるまでの流れと再認定審査の流れ（日本ジオパーク委員会 HP より）

再認定審査（10月10日～13日）の様子

今回の再認定審査は、京都から始まり鳥取で終わるという行程でした。審査員は、アイスランドとマレーシアの2名の審査員で、初日（9日）はほとんど移動日でした。現地審査は、2日目の午前中の京丹後市から本格的に始まりました。私は、2日目の午後の兵庫県の審査から同行しました。

2日目（10日）の午後は、コウノトリの郷公園と玄武洞公園の審査でした。コウノトリの郷公園では、コウノトリの野生復帰の取り組みの歴史や、その後の地域の変化などが説明されました。また、玄武洞公園は今年から有料となり、案内所もリニューアルしていました。山陰海岸ジオパークの国際的に重要なジオサイトでもあり、審査員の関心も高かったように思います（写真1）。

3日目（11日）は、余部橋梁、山陰海岸ジオパーク館、湯村温泉を訪れました。余部橋梁では、看板の説明や鉄橋の歴史等の説明がありました（写真2）。また、余部鉄橋「空の駅」では、瑞風が通るといふサプライズがありました（写真3）。山陰海岸ジオパーク館では、館長が館内を案内されました。熱い語りで取り組みの熱意は伝わったように思います（写真4）。その後、宿泊先の湯村温泉の朝野家で自己評価表のチェックがあり、一つ一つの項目を確認し、疑問点があれば審査員が質問するといった形式で行われました。

4日目（12日）は鳥取県内の審査で、海と大地の自然館から始まりました。ここでは、自然館の展示内容や学芸員や専門員の取り組みなどを説明しました（写真5）。その後、山陰松島遊覧に移動し、活動の説明の後（写真6）、船長の解説で網代漁港や城原海岸に移動しました。本来は遊覧船で浦富海岸を見学する予定でしたが、波が高くて遊覧船が欠航し、間近に海岸の地形が見ただけでなかったのが残念でした。午後は、鳥取砂丘ビジターセンターに移動し、館内の説明や気高町でのコウノトリの保護、あおや郷土館の取り組みなどの説明がありました。そして、鳥取砂丘地内を歩き（写真7）、砂丘の杭や追後すりばち等の説明がありました。その後、ビジターセンターに戻り、チェックができていなかった自己評価表のチェックが行われました。

5日目（13日）は、ホテルで講評がありました。講評というよりも感想で、指摘事項となるような内容は語られませんでした。しかし、素晴らしいジオサイトや取り組みは評価していただけたように感じました。

審査員は、ユネスコの職員ではなく、我々と同じジオパークを運営している仲間です。審査は、訪れたジオパークを再評価するとともに、良い点を吸収し、自分のジオパークに活かしていくために行っています。したがって、審査を受ける側もしっかりと議論し、意見を述べることで世界貢献につながるのではないのでしょうか。（安藤）



写真1：玄武洞での審査の様子



写真2：余部橋梁での説明



写真3：「空の駅」を通過する瑞風



写真4：ジオパーク館での説明



写真5：海と大地の自然館での説明



写真6：山陰松島遊覧での説明



写真7：鳥取砂丘を歩く審査員一行